

# 2025 年度 台湾研修 報告書

医療科学部 放射線技術学科 2 回生 氏 名 濱田 心美

## 台湾研修概要

本研修は、2025 年 8 月に実施され、台北市を中心に医療機関の見学や大学での交流を行った。学内外での研修を通じて、台湾における医療の現状や教育体制を学ぶとともに、台湾の文化に対する理解を深めることを目的とした。放射線技術学に関わる最新の設備や臨床現場の工夫を直接拝見できたことで、今後の学修や将来像を考える上で大変貴重な経験となった。

## 本研修に参加した目的と目標

私が本研修に参加した目的は、海外の医療現場を見学し、日本の医療との違いを知り、視野を広げることである。特に、放射線技術学の分野でどのように安全管理が行われているのか、また患者さんへの対応がどのように工夫されているのかを知ることが目標とした。さらに、将来医療人として必要とされる国際的な視点を養うために、異文化交流を積極的に行うことも意識して参加した。

## 学内研修で学んだこと

ユンペイ大学の歴史館では、大学の成り立ちや発展の過程について学び、台湾における教育と地域社会とのつながりを理解することができた。中国語の授業では、基本的な表現や発音を学び、実際に言語に触れることで異文化理解を深められたと感じた。また、授業を通じて台湾のボランティアやメキシコからの留学生と交流し、国際的な視野を広げる良い機会となった。さらに、ユンペイ大学で使用されている機器を見学し、たとえば MRI の磁力を体験するなど、学内で学んだ知識と具体的に結びつけることができ、放射線技術への理解をより深めることができた。

## 学外研修で学んだこと

台湾では二つの病院を見学した。1 つ目の病院では、ベジタリアン食に力を入れており、食事を通じた健康管理を重視している点が印象的であった。台湾はベジタリアン人口の割合が世界的にも高く、国内全体でその文化が広く浸透していることを学んだ。また、病院内にはジムが設置されており、病気を治療するだけでなく、予防や健康増進に取り組む姿勢が強く感じられた。

2 つ目の病院では、医療のデジタル化が大きく進展していた。受付や診察の呼び出しにおいて、患者は IC カードを利用して手続きを行っており、日本のマイナンバーカードに近い仕組みが導入されていた。このシステムは特定の病院だけの取り組みではなく、台湾政府全体が推進しているものであり、医療の効率化や利便性向上につながっていると理解できた。

## 観光&交流

観光や交流の場面では、台湾の学生ボランティアに加え、メキシコやインドからの留学生とも共に行動した。九份や台北 101 といった台湾を代表する観光地を訪れ、歴史的な街並みや都市の近代的な一面に触れることで、台湾文化を多角的に理解する機会となった。また、現地ならではのマンゴーかき氷や小籠包を味わい、食文化を通して台湾の魅力を実感することができた。

送別会では、台湾の学生ボランティアの皆さんが私たちのためにパフォーマンスや企画を準備してくれた。限られた時間の中で心を込めて準備してくれた姿から、相手を思いやる気持ちの大切さを強く感じ、交流を通して築かれた絆の深さを実感した。今回の体験は、国境を越えた友情や文化交流の意義を改めて考える契機となった。

## まとめ

今回の台湾研修を通じて、医療制度や技術の違いを学び、自分自身の将来像を考える良いきっかけとなった。日本では当たり前だと感じていたことも、他国では異なる形で実践されており、その違いを理解することが医療人としての成長につながると実感した。今後は、今回得た経験を大学での学修に生かし、より幅広い視点から医療を捉えられるよう努めていきたい。

## 謝辞

最後に、このような貴重な研修の機会を与えてくださった先生方、研修先の医療機関や大学の関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。また、共に研修に参加した仲間たちにも深く感謝する。互いに刺激を与え合いながら学びを深めることができ、この経験が私の今後の大きな糧となった。

## 写真（注釈も入れる。文中に対応する写真について記載する）



飛行機内



大学の超音波室



ホテル近くで食べた豆花



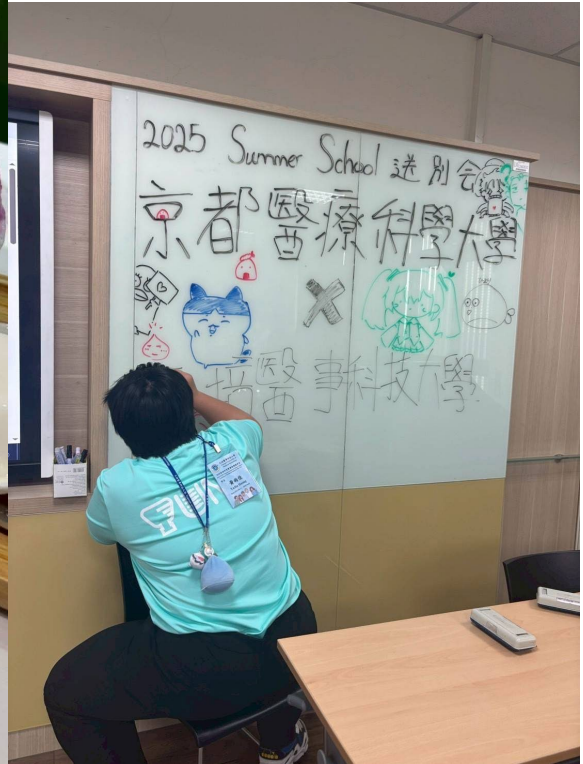
101 で食べた小籠包など



九份で食べたマンゴーかき氷



バス内の写真



送別会での写真